

2023年7月6日

The Partnership to Fight Infectious Disease
(PFID: 「感染症と戦うパートナーシップ」)

スーパー耐性菌との闘いに注力する米国5団体、PASTEUR法案の再提出を歓迎 抗菌薬開発活性化の必要性を訴え、2023年内の法案可決を要請

Biotechnology Innovation Organization (バイオテクノロジーイノベーション協会)、Cystic Fibrosis Foundation (嚢胞性線維症財団)、Infectious Diseases Society of America (米国感染症学会)、Partnership to Fight Infectious Disease (PFID: 感染症と戦うパートナーシップ)、The Pew Charitable Trusts (ピュー慈善信託) の米国有力5団体は2023年4月27日(米国現地時間) [PASTEUR \(Pioneering Antimicrobial Subscriptions To End Upsurging Resistance: 急増する耐性に終止符を打つための先駆的な抗菌薬サブスクリプション制度\) 法案](#)の再提出に対して、以下の声明を発表しました。

米国下院・上院が超党派によるPASTEUR法案を再提出したことは、公衆衛生や米国の国家安全保障とその備えを脅かす抗菌薬耐性の危機に対処する上での重要な一歩といえます。この重要な問題を、2023年の議会活動の優先事項として取り組んでいる、Michael Bennet 上院議員(民主党、コロラド州)、Todd Young 上院議員(共和党、インディアナ州)、Drew Ferguson 下院議員(共和党、ジョージア州)、Scott Peters 下院議員(民主党、カリフォルニア州)を称賛します。

当初、第116議会で提出されたPASTEUR法案は、緊急に必要とされる抗生物質や抗真菌剤の開発を促進すると同時に、薬剤の有効性を維持し、危険なスーパー耐性菌のまん延を遅らせる上で重要となる、既存薬の適切な使用を支援するという、バランスの取れたアプローチにより党派を超えて幅広い支持を得ました。同法案は、前議会が終了するまでに、上下両院で70人以上の共同提案者の支持を得ていました。今年に入ってから、バイデン政権がこの種の政策を可決するよう議会に要請したほか、医療従事者、公衆衛生専門家、科学者、患者、製薬・診断業界を代表する230以上の団体が共同で、同法案の早期可決を求める[議会指導部宛ての書簡](#)を提出しています。

抗菌薬耐性は、党派を超えた問題です。医療現場にとどまらず、はるかに広範囲に及ぶ、深刻さが増している公衆衛生上の緊急事態です。米国では15分に1人が、既存の抗菌薬による治療に耐性のある感染症が原因で死亡しています。つまり、PASTEUR法案が前回提出された2021年6月16

日以降、6万4,000人以上の米国人が、感染症の治療に適切な薬剤がなかったために死亡していることとなります。

薬剤耐性感染症は、遊び場での擦り傷、出産、臓器移植、あるいは単に食料品店の列に並んだことが原因で生じる可能性があります。多剤耐性を持つスーパー耐性菌のまん延性と、緊急に必要とされる新薬のパイプラインの慢性的な破綻が相まって、PASTEUR 法案の可決をこれ以上待つことはできないという厳しい現実が浮き彫りになっています。

PFIDを含む5団体は、PASTEUR法案を再提出し、議会で直ちに法案が可決されることを要請している Bennet 上院議員、Young 上院議員、Ferguson 下院議員、Peters 下院議員に感謝します。

#